



# 大衆芸能の魅力

## 「お笑い」をもっと知って、明るく楽しく生きよう

昨今、笑いが健康に良いということで「医療と笑い」をテーマにしたシンポジウムも開かれるなど、暮らしの中での笑いが見直されています。今回はテレビやラジオなど身近に接する「お笑い」について、きらめき講座講師の相羽秋夫さんにお話を伺いました。相羽さんは大学卒業後、松竹芸能社に入社、一時は大村崑、笑福亭鶴瓶などのマネージャーを務められました。松竹芸能から独立後は、放送作家として活躍されるとともに、大阪芸術大学で25年間教鞭をとられ一昨年退職されました。また、演芸に関する著書も多数執筆され、テレビ・ラジオなどにも出演されています。

### ■大衆芸能はいつから始まったのですか。

日本の芸能文化は、仏事や神事が始まりです。教義をわかりやすく大衆に伝えることがお説教です。「こんな生き様をするとみんなに笑われますよ」という話をおもしろおかしく人を笑わせながらお坊さんが説法したものです。その法話が落語の原点です。落語の登場人物は“すかたん”ですよね。それを聞いてみんなが笑うわけですね。浪曲は、節談説教（節、抑揚をつけて聴衆の情念に訴えかけるように説く）から、講談は絵解き説教（巻物の図や絵でわかりやすく説く）からきています。

江戸時代の初めころ、京都の誓願寺で住職の安楽庵策伝が、「おち」のある笑い話を取り入れた説教をしました。これが落とし話、落語です。落語家第1号は露の五郎兵衛です。5代将軍綱吉のころ、京都の北野天満宮や祇園で大道芸のように立って小咄をしたのです。都の地、京都へは全国から人々がやってきます。江

戸から来ていた鹿野武左衛門しかの ぶざえもんが見て、これはおもしろいと持って帰って浅草寺などで披露しました。これが江戸落語です。同じく米沢彦八よねざわ ひこはちが大阪で披露したのが大阪落語。そこから京都、大阪が一つになり上方落語になっていきました。だから本来、落語の発祥は京都です。

### ■上方落語と東京落語の違いは？

上方落語は、「笑い」が主でおもしろくなければダメ、話に飛躍があってもかまわない。それに引きかえ、東京落語はストーリー性がなければダメ、物語がきちんとしていることが大事で、聞き終わったあと感心するのです。大阪は感心しなくてもよい、笑えないとダメです。これは関西人の気質で、本音と建前の違いです。東京は武士の町ですから建前を大切に、大阪は商人の町ですから本音なのです。だから、大阪では、落語よりも、漫才が中心になるわけです。1人でする落語より、2人でする漫才の方がパターンもいろいろ

できますからおもしろい。そして、笑いをかぶせていく、次々と連発していくのが大阪（上方）のやり方です。けれども、大阪のようなどぎつい笑いを東京でやると受けません。「笑いを薄める」といいますが、あっさりした芸に変えないと東京に進出できません。逆に東京の人は大阪にあまり来ません。林家三平のような人も大阪には一度も来ませんでした。東京では落語が主流です。今は落語家が東京で500人くらい、大阪で250人くらいいます。ただ、昭和40年ころには大阪に15人くらいしかいませんでした。仁鶴がスターになったことで一挙に増えました。しかし、今でも落語だけで食べられる人は極少数で、ほとんどはタレント落語家です。

### ■お笑いブームの背景には何があるのでしょうか。

1980年代が戦後第1期の漫才ブームでした。ブームには波がありますが、結果的にはテレビ局が作っ

**相羽秋夫**（あいばあきお） 演芸評論家・茨木市文化振興財団 理事  
〈プロフィール〉  
本名：澤田健一郎 1941年9月生 名古屋市出身  
同志社大学法学部卒 演芸評論家・放送作家 著書多数  
元大阪芸術大学教授（芸術計画学科長）  
現在、生涯学習センターで講座「大衆芸能の魅力」を担当



大衆芸能、演芸などについての著書

ているのです。ドラマなどと違って演芸番組は安く作る事ができます。マイク1本立てておけばいいし、背景のセットも大して費用が要りません。世の中が不景気になると、テレビ局は制作費を押さえた演芸番組を作るようになります。また、私たちも能や歌舞伎を見ようとしたら格式が高いので、ちょっといい衣装を着て、帰りに美味しいものでも食べて、となるとお金がかかります。それよりテレビでよくみる落語や漫才に行くほうが安上がりで済みます。おまけに不景気な気分を笑いに変えてくれるので、ますますブームになるわけです。しかし、景気がよくなるとその反対です。

### ■芸のある人は何が違うのでしょうか。

「時間」です。一つの芸を得るためには、何十年と時間がかかります。苦しい時代を経験した人は辛抱ができます。その時々ちゃんとアレンジできるように努力することが大事です。その積み上げをやれた人が生き残れるのです。師匠の指導というのは、私生活の礼儀作法は教えますが、あとは自分で師匠の芸を舞台の

袖から見て覚えていくのです。松竹新喜劇は物語を藤山寛美が演じていました。一方、吉本新喜劇は集団のコントなので演者の個性で見せています。一人の芸人の個性で笑わせても、一発ギャグは繰り返しがきかないので、飽きられれば消えてしまいます。島田紳助なんかは、よく努力していましたし、頭がよくて応用力がありました。本当の芸は繰り返しがききません。何回見てもおもしろい、落語でも芸のある人は何回聞いてもおもしろいのです。

笑いを取るというのは、一般的には相手に優越感を与えることです。演者がバカなことをする、恥をかくことで笑わせます。見る人が劣等感を持つようなことでは笑えません。また、ちょっとしたことをオーバーに言う、「今日は幾千万人のお客様が・・・」と言えば笑えるが、「今日は500人の方が」と言うと笑えない。また、逆説的なパターンを取り入れるやり方もあります。大助・花子の漫才にしても、弱いと思われる男性をぼろくそに言うから笑えるので

す。これらは笑いのテクニックです。その時代を見て、常にアンテナを張って人を笑わせる。そして、楽しんで帰ってもらおうという気持ちがあればいいのです。

### ■きらめき講座の「大衆芸能の魅力」はどのような内容ですか。

具体的にはビデオ鑑賞をします。講義の初めに笑いのポイントについて話してから見ていただくと大変興味深く鑑賞できます。

長く大学の先生をしましたが、私は放送作家が本業です。放送作家はプロデューサーからの発注がなければ仕事できません。だから、それでは生活できないので先生をさせていただきました。ちなみに、一流アーティストは大学の先生をやらないういでしょう。・・・インタビューにも「おち」がありました。